

福野地域 会議録

件名	福野地域提言実現検討組織 拠点づくりグループ 会議		
日時	令和元年 7 月 8 日（月）19 時～21 時	場 所	福野庁舎 2 階 講堂
出席者	拠点づくりグループ参加メンバー：8 名、地方創生推進課：1 名		
内容	・参加メンバーからの提供資料の説明 ・複合交流施設に必要な機能と具体的な取組について		
概要	→拠点施設を公共施設として整備する検討を進める場合は、公共施設再編計画で、市所有の公共施設の面積を半分にしなければ将来維持していけない、ということが判明している中において、将来かかる負担を考慮した上で、自立した取組となるよう、内容を十分に検討いただきたい。 ●公共施設の縮減について、他地域とのバランスはどうなっているのか。それぞれの地域が平等に 50%削減するのか。福野は人口が多く、減少割合は最も少ないし、公共施設の利用率も高いものが多い。さらに、施設数は多くなく、小中学校も一つずつという現状。他の地域にはすぐにでも削減できそうなものがたくさんあると感じており、まずはそこから進めてもらわなければ納得できるものではない。そういったことを踏まえた再編の進め方の方向性をはっきりと示した上で、今回の拠点施設整備の考え方を他の城端や井波についても統一して、将来のことを考えた判断をしていってほしい。 →旧 8 町村の地域バランスを考慮して決めているものではなく、その施設の機能によって行政で持つべきか、もしくは、分類ごとの統合や複合化を図りながらも維持すべきか、という判断によるもの。 ●五箇三村には施設が多く、どれも利用率が低いと思われる。福野・福光の施設のように利用率の高い施設がそれらと同じ扱いをされることのないよう、基準を明確にすべき。福野の各地区にある体育館が、他の地域と比較して贅沢だ、という意見も聞くが、利用率も考慮した上で判断されるべき。 ●旧町村の地域間で、感情的に言い争いしてみても意味がないことは分かりきっているが、福野は昔から周りに気を遣い過ぎるヨスマの考え方が根強く、後からになって後悔するようなことにならないよう、慎重になるべき。 →福野地域の公共施設の合計面積は、小中学校も含めて約 10 万㎡ある。現在の公共施設再編計画の進捗から考えると、地域間のバランスがどうこうというレベルではないのではないか。今後、計画が進む中で、当然そういった視点も必要になってくると思われるが、それぞれの地域で施設を相当減らしていかなければならないということを理解いただきたい。 ●この会議の中で、南砺市全体の 50%の縮減について議論してみても前に進めない。また、今後、新しいものは何も作らないということではないだろう。そういうことから、福野地域として、新しい核となる施設は、スクラップアンドビルドの考えのもと、壊す施設面積の 50%程度に抑えて考えていけば、公共施設再編計画を踏まえたものとして説明がつくのではないか。こういう手法の積み重ねでも、最終目標の 50%に到達していくはずであり、壊すものと新たに造るものを試算してみた。 ◆古瀬氏より、提出資料の説明 （資料 1 公共施設再編計画の視点からの試算） 廃止する施設の名称と延床面積、新しい核となる拠点施設の規模のイメージ試算 ●廃止する施設面積の 50%という中で、よくまとめられているが、それで私たちが望んでいる施設ができるのか、ということが気になる。 ●行政はこの会議のメンバーに、公共施設の 50%削減を手伝わせようとしているのか。論点がずれていないか。 ●庁舎がなくなっても地域の活気を出す複合交流施設を作りたいという思いに対して、こちらから引き出しているもの。無くなる庁舎全体の面積は、今後、地域ごとの公共施設再編の議論が進んできた際には、当然考慮されるべきと考えている。 ●旅川福祉交流館の現在の機能は。廃止する施設として含めてもよいか。 →現在、旅川福祉交流館を利用されている団体に係る機能については、今後の譲渡交渉も踏まえた上で、行政が代替機能としての施設を整備する可能性も考えられる。 ●旅川福祉交流館も含めるとすれば、その 50%は 1450㎡。まだ残り 600㎡近く、整備可能である。		

- 公民館として整備する場合、補助金を受けることができるのでは。補助金を受けられるとなれば実行しやすい。既に名称は公民館ではなく交流センターとなっているが、機能として完全に分けることができれば可能性はあるのではないかと。数年前に、教育委員会に公民館整備の要望として提出した施設整備案の図面があり、具体的なイメージは持っている。
 - 発達障害やメンタルヘルスコミュニティの関係については、南砺市全体で取り上げてもらって、進めてもらう方がよいのではないかと。今考えているこの施設の中に一緒に取り込むとすれば、いろいろな課題がでてくるのではないかと。
 - とりあえずテナントとして入れてある。他のテナント空間の面積については、広いものも要し、狭いものも要すると思われるが、家賃も考慮した上で検討すべき。
 - 市に施設を建ててもらった場合のテナントの収益はどうなるのか。市の施設といえば指定管理ということになって、利益を上げてはいけないといった誤解もあると思われるが、建物を維持していく中で、少し増設したり、施設の内容を充実したりといった場合の資金として、蓄えておくというようなことはできないのか。
 - 現在の指定管理者制度では、利用率の高い施設であれば、ある程度の修繕などもすぐに対応できるが、そうでない施設の場合は、ちょっとした修繕でさえもままならない状況と聞く。今回の中央公民館的な施設は、収支ゼロになれば望ましいのかもしれないが、それを超える場合には、テナント料の値段設定と併せて、積み立てできる仕組みも検討して、持続可能な運営をすべきと考える。民間施設なら当然の考えだが、市の税金で建てる施設だから使ったもん勝ち、というものではないだろう。
 - 壊す施設の利用状況を考えれば、最低でも現在の産業文化会館にある会議室の広さや数は必要なのではないかと。それから、産業文化会館に入居している老人クラブやライオンズの事務所の移転先をどうするかも考えなければならないのでは。
 - 我々は産業文化会館を解体すればどうかと提案をしているだけであって、実際に解体するのは行政。現在入居している団体の移転は行政で対応すべき。福光庁舎別館の入居団体の移転について、市が移転補償しているのと同じで、構う必要はないはず。
 - 会議室やテナントの広さについての、だいたいのイメージはこれでよいのではないかと。メンタルヘルスのテナントを入れて、計1450㎡で提案すればどうか。基本的には中部まちづくり協議会が主体となった交流センターであるが、まちの拠点施設として、地域を問わずに、誰でも利用できる施設、ということにしたい。また、なぜこの機能が必要かということについて、「行政施策との関連」の欄に記載している。まず、市の取り組んでいる小規模多機能自治を推進するために必要な産業文化会館の代替機能、それから、高齢者を地域で支え合う体制づくりをするように求められていること、それから子育て支援という観点。どれも行政施策を進めるために必要なもの。
- テナント空間について、なんとなく面積などを決めておられるが、テナントによる収益を施設の維持管理費に充てる計画の中で、もしテナントが決まらず入らなかった場合、どうするつもりなのか。
- 当然、市から運営費を補填してもらう。何もかも地域で管理しろというのか。市の考え方がおかしいのではないかと。地域のために考えてやっていることであり、民間がやれないから行政に応援してもらうのは当然のこと。
 - 市に甘えるのではなく、ある程度の計画案の中で、持続可能な形で、自分たちができること、できないことの線引きを決めていかなければならないのではないかと。ぼんやりとした話ではだめだと思う。また、ある程度の形ができれば、民間でやる人も出てくるかもしれない。
 - こんな福野で儲かるわけもないのにやる人がいるわけがない。都会でやるのとは違う。通りすがりの人が集まるわけでもなく、地域の人しか利用しない施設。民間でできるはずがない。地域だけで維持管理していくこともできない。そんなことから、施設整備の際にも電気代がタダになるような、太陽光パネルの設置など、配慮してほしい。お金をかけて、いろんな工夫もしてもらって、その上で、持続可能な方策を検討したい。

(資料2 持続可能な運営方法の検討案)

- 中部の交流センターとして整備するなら、中部の人たちにとって本当に何が必要なのか、ということをもっと詰める必要があるのではないかと。
- 産業文化会館が無くなることを前提に、中部のまちづくり協議会の拠点施設が必要だと

いうことをイメージして具体化してみたもの。

- 産業文化会館の利用率は非常に高い。産業文化会館が無くなったら、代替の施設はなくてはならない。ヘリオスを代わりに使うということなど考えられない。

→今後、公共施設を半減させなければ維持管理ができなくなるという中において、新たに設置する施設の維持管理費をどう確保していくか、しっかりと詰めていかなければ実現は難しい。行政からの多額の維持管理費を充てなければ維持できないというような内容では、数年後にすぐに再編の対象となってしまう。

- 当然、これから詰めていくが、我々だけでは詰められないことがたくさんあるし、造ったものを全部地域で管理しろと言われても無理がある。しかし、拠点施設の維持管理は、中部のまちづくり協議会への地域づくり交付金でほとんど回せるのではないか。不足分はテナント料等で対応することを想定すればどうか。

→それらの実施に係る採算性の確認を、このグループで行っていただきたいということ。

- これまでの産業文化会館の利用率や、新たな高齢者サロン等の参加者見込み、行政センターの利用者数なども加味して計画を作るということだと思うが、単に建物を維持管理するお金の採算だけで判断するのではなく、施設を建てたことによって交流人口がすごく増えた場合は、市民活動の場が増えたという点では税金を納めている市民の理解は得られるはずなので、テナントが埋まる、埋まらないの小さな話ではなく、どれだけの交流人口が見込めるかを試算した方が、説得力があるものになるのではないか。人が集まることで、テナントを出したいという人も期待できる。

- 現在、各地区の公民館（交流センター）の維持費は、各戸より徴収して対応している。南部地区は、2,000円／年・世帯、北部地区は、1,800円／年・世帯。中部地区は、現在、産業文化会館を活用していることから、300円／年・世帯となっているが、新たに活動施設を持つということになれば、当然、各戸でしっかりと負担していく。中部地区以外の方が利用される場合の使用料も検討していく。

- 今後、持続可能な運営方法を詰めていく必要があるが、運営上の観点では、地域での物品の販売や、障がい者の方のパンの販売なども行い、収益の一部から場所代をいただくことや、その他、維持管理のアイデアも考えていきたい。

- これだけの大きさの施設の維持管理費について、おおよその試算だけでも先に出してみないとイメージがつかみにくい。市の指定管理の例を基に、㎡単価など教えてほしい。

- 公共施設の縮減で、地域の賑わいも縮減していくのではなく、活気のある、にぎわいのある拠点施設にしていくことが目標。面積にはある程度の余裕は必要かもしれないが、決して大きいものを望んでいるものではない。木造平屋建てで、福野中部まちづくり協議会で管理できるもの。

- 市で建物を建ててもらう。その後3年間の維持管理費は指定管理等で市に甘える。その後、中部まちづくり協議会を中心としたNPO法人やリノベーションスクールをベースにした民間組織で、完全に譲渡を受けて、運営していく、ということも考えたい。

→基金の活用も含め、他のグループとの調整も行っていきたい。

- メンタルヘルスコミュニティの機能については、テナントとして盛り込んである。本格的な医療機関として入るとすれば、もっと規模の大きいものになるのかもしれないが、詳細については提案された高橋さんの方で確認して進めていただきたい。

- 住民アンケートで個人病院が少ないという指摘もあったと思う。メンタルヘルスの専門医に限らず、この場所でやっていただけるお医者さんが見つかれば、入っていただくというスタンスでいいのでは。

◆次回会議

7／29（月）午後7時から 福野庁舎2階201会議室

（次回までに行政に求む資料）

- ・市内の指定管理施設の指定管理料の一覧資料
- ・H28, H29 公共施設情報（施設の利用率）の資料

ダイジェスト版

南砺市公共施設等総合管理計画

人口の減少、少子高齢化の急激な進展や厳しい財政状況が続く中、将来の子や孫たちのためにわたしたちがやるべき責任とは何でしょうか。

今後30年間、すべての公共施設を維持することはできません。30年後の子や孫、ひ孫のために、公共施設の縮減が必要です。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。



僕たちのことも、考えてね。



公共施設等総合管理計画とは？

市が所有している公共施設などの現状や課題を踏まえ、30年後の世代が、財政的に無理なく現在のサービスを受けることが出来るために、管理すべき公共施設の数や面積を見極め、これからの公共施設の管理のあり方をまとめたものです。

計画期間＝2015年度から2044年度まで（30年間）

※公共施設等総合管理計画(案)、公共施設等白書は南砺市ホームページ(<http://www.city.nanto.toyama.jp/>)からご覧いただくことができます。



南砺市 行革・施設再編課

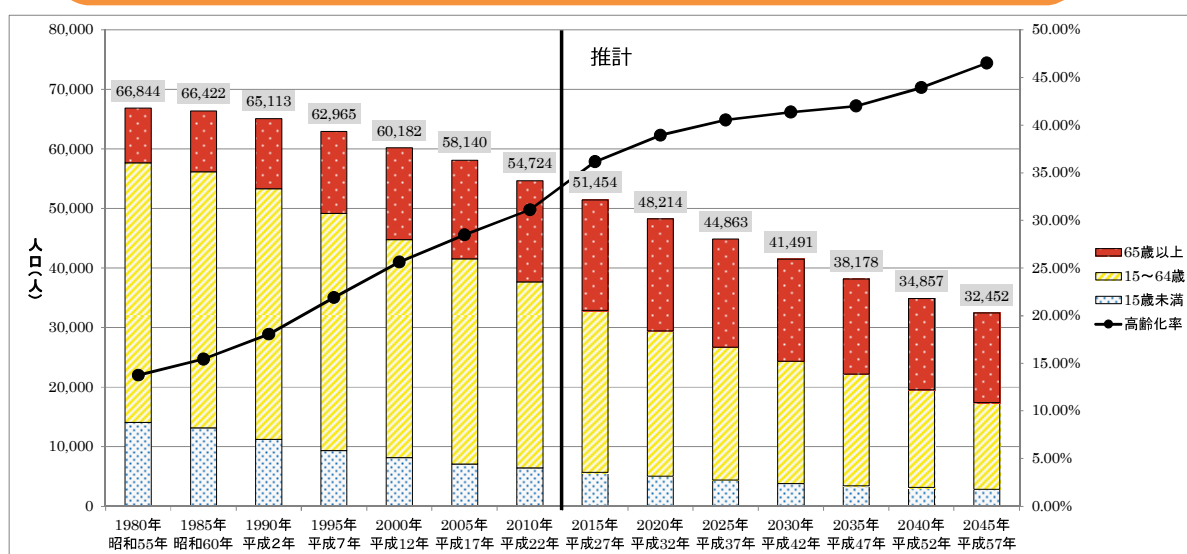
〒939-1596 富山県南砺市苗島 4880 番地
TEL 0763-23-2051（直通）



なぜ、公共施設の縮減が必要なのか？

人口動向

現在の人口は 53 千人で、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、減少傾向は依然として進展し、30 年後の 2045 年には **32 千人まで減少**すると予測されているんだって。65 歳以上の高齢者の割合は、今は 3 人に 1 人だけど、2045 年には **46.5%、2 人に 1 人**になるらしいよ。



財政見通し

本市の歳入のうち、4 割を占める国からの地方交付税は、市町村合併による特例により、旧 8 町村ごとに計算した普通交付税の合計額が 10 年間維持されてきたよね。でもね、合併から 10 年を経過し、後 5 年でその特例が終了し、2014 年から 2020 年までの間に **14 億円程度**も歳入が減ると見込まれているんだよ。



地方交付税の合併算定替えの影響

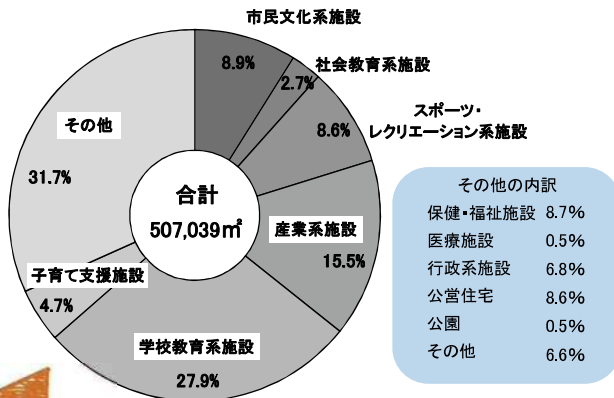
(単位：百万円)

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年
普通交付税額	13,940	13,400	12,991	12,946	12,901	12,680	12,570

※2014 年は決算見込額とし、それ以外は見込み数値としています。

公共施設の保有量とコスト(平成25年度)

大分類別の延床面積割合



学校教育施設が全体のおおよそ3割と最も多く、次いで産業系施設、市民文化系施設と続きます。

対象施設の一覧(平成25年度)

大分類	中分類	小分類	施設数	延床面積(㎡)	年間維持管理費等
市民文化系施設	集会施設	コミュニティセンター	10	3,834	6.3億円
		公民館	29	14,816	
	文化施設	文化センター	8	17,744	
		その他文化施設	1	3,589	
		文化財施設	17	5,168	
社会教育系施設	図書館	図書館	5	6,114	3.6億円
	博物館等	博物館等	13	7,543	
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	体育館	18	27,513	4.6億円
		テニスコート	2	200	
		野球場	2	828	
		屋内競技場	6	8,981	
		温水プール	2	3,443	
		グラウンド	3	902	
		その他体育施設	3	1,920	
		スキー場	5	11,710	
産業系施設	産業系施設	宿泊施設	11	21,069	9.4億円
		その他観光施設	16	14,784	
		温泉施設	4	4,881	
		農業振興施設	9	5,171	
		林業振興施設	5	1,468	
		商業振興施設	3	6,652	
		その他産業施設	8	12,816	
		学校教育系施設	学校	小学校	
中学校	9			66,217	
子育て支援施設	幼保・こども園	保育園	17	20,772	11.9億円
		児童館	3	1,929	
	幼児・児童施設	子育て支援センター	8	1,165	
		その他子育て支援施設	1	117	
保健・福祉施設	高齢福祉施設	介護福祉施設	12	32,041	4.8億円
		その他の社会福祉施設	8	8,380	
	保健施設	保健センター	5	4,033	
医療施設	医療施設	診療所・医療センター	4	2,319	0.3億円
行政系施設	庁舎等	庁舎	8	29,425	4.3億円
		消防施設	消防署	1	
	その他行政系施設	その他消防施設	32	3,260	
		その他行政系施設	5	865	
公営住宅	公営住宅	市営住宅	27	43,656	1.0億円
公園	公園	公園	10	2,441	0.3億円
その他	その他	駐車場、駐輪場	3	1,183	1.5億円
		公衆トイレ	4	305	
		普通財産	46	20,217	
		その他公共用施設	9	2,720	
		その他公用施設	34	9,024	
計			437	507,039	57.4億円

面積が大きいのは学校、観光施設等の産業系施設、文化センター等の市民文化系施設だね。

お金が多くかかっているのは、保育園や産業系施設、学校等だね。

これからは、人口は減るし、市の収入も減っていくのに、全部の建物を維持していけるかな？



色々な公共施設が多くあるんだね。
1年間の維持管理費等は57億円も必要なんだ。

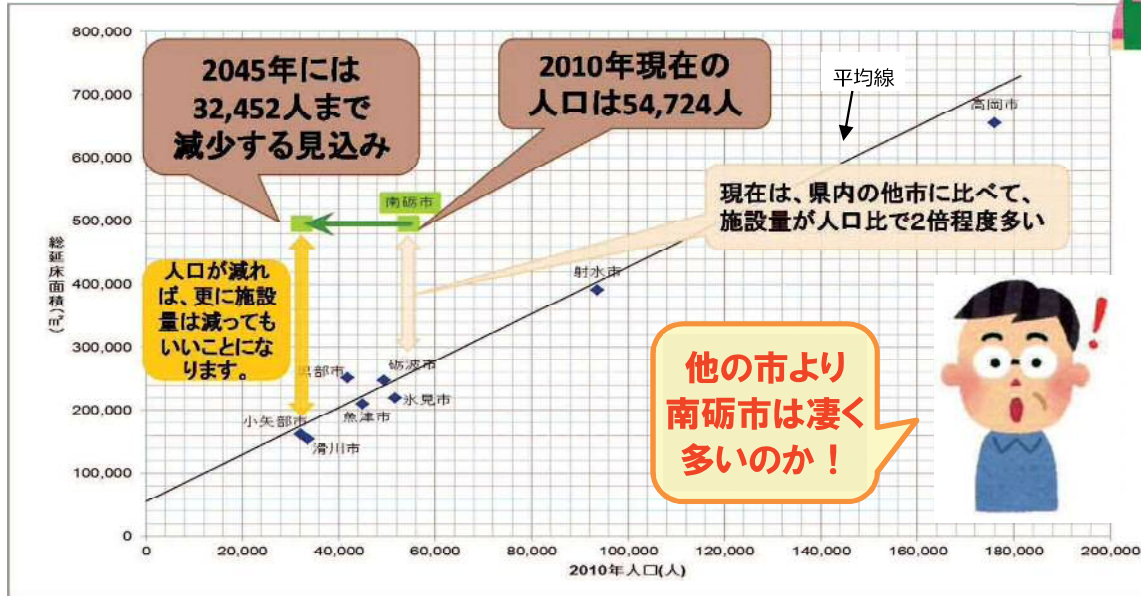
50㎡以上の公共施設

保有施設：437施設

総延床面積：507,039㎡

他市との比較

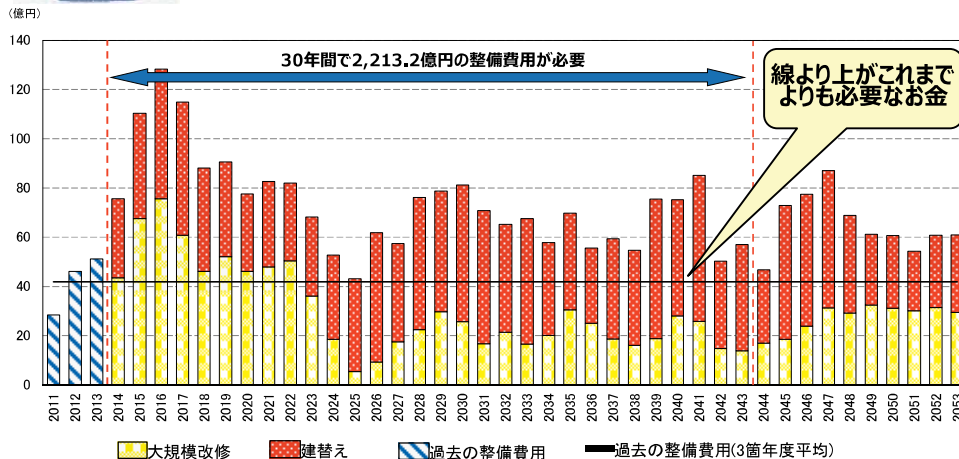
南砺市は、県内の他の団体の平均である図表内の直線に比べて大きく離れており、人口に比べて建物総延床面積が多い状況がよく分かるね。



今後の施設整備にかかるお金(過去3ヶ年との比較)

市が保有するすべての公共施設を同じ規模で今後も維持管理や建て替えしたと仮定した場合、今後 **30 年間でかかる費用総額は 2,213.2 億円** (年間 73.7 億円) で、過去の整備費用 (3ヶ年平均) 41.9 億円と比べると 1.7 倍の費用がかかります。

公共施設を維持し続けるのに **年間約 32 億円の財源不足** か！
すべての施設を残していくのは不可能だな……





では、どれだけの施設量なら残していけるのか？

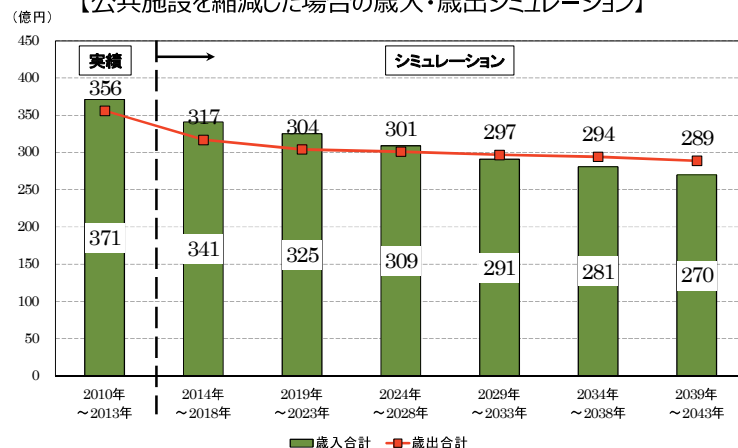
市は限られた予算の中で、教育、福祉、建設といった様々な事業にお金を使っています。これらの事業を維持しながら、どれだけの公共施設の量なら今後維持管理していけるのか。次の条件のもとで、30年間の計算をしました。

- ① 建物の大規模な改修は行わず、耐用年数を2割延長する。
- ② 建物面積を50%に縮減する。



この条件で計算した場合、30年間で約14億円の黒字となり、概ね財政の均衡がとれることが分かりました。

【公共施設を縮減した場合の歳入・歳出シミュレーション】



建物の更新条件

約50%を縮減するとして、大規模改修を行わずに耐用年数を2割延長して更新した場合

歳入-歳出 (30年)	歳入-歳出 (1年あたり)
14億円	0.4億円



このままの状態が続けば、現状の公共施設を **30年後に半分程度**にするほどの**厳しい公共施設縮減(民間への運営移行等含む)**をしないと、財政が均衡しないという非常に厳しい状況なんですって！
でも、市民みんなで頑張って、人口が減少せず、税収も維持できれば、約50%も縮減しなくてもいいんですよ。





南砺市公共施設等総合管理計画では、

これからどうしていこうと考えているのでしょうか！

下図が仮に公共施設を縮減とした場合の、分類毎の目標面積です。

短期（1～5年）に約 **58,800 m²**、中期（6～10年）に **83,800 m²**、
長期（11～30年）に **99,300 m²**、**30年間合計で 241,800 m²**と、**現在と比べて約 50%の公共施設面積の縮減**を行おうと考えています。

※公共施設の縮減には、廃止や取り壊すばかりでなく、施設を民間へ譲渡し、現在のサービスや運営を担っていただくなど、民間活力を利用した施設の再利用も含んでいます。



【収支が均衡する水準を目指した公共施設縮減のシミュレーション】

（単位：m²）

中分類	現在		縮減目標			
	総延床面積	施設数	短期(1～5年) 総延床面積	中期(6～10年) 総延床面積	長期(11～30年) 総延床面積	合計 総延床面積
集会施設	18,650	39	3,700	0	0	3,700
文化施設	26,500	26	300	2,700	7,700	10,700
図書館	6,114	5	0	0	3,500	3,500
博物館等	7,543	13	3,100	500	500	4,100
スポーツ施設	43,787	36	3,400	4,800	20,700	28,800
産業系施設	78,551	61	35,400	16,000	17,900	69,400
学校	141,217	20	0	0	31,600	31,600
幼保・こども園	20,772	17	3,200	0	1,700	4,900
幼児・児童施設	3,211	12	100	0	1,500	1,600
高齢福祉施設	40,421	20	1,900	34,800	1,500	38,100
保健施設	4,033	5	0	1,400	0	1,400
医療施設	2,319	4	0	0	1,000	1,000
庁舎等	29,425	8	0	18,900	0	18,900
消防施設	4,083	33	800	0	0	800
その他行政系施設	865	5	0	0	500	500
公営住宅	43,656	27	2,800	4,200	9,900	16,900
公園	2,441	10	0	0	0	0
その他	33,449	96	4,300	500	1,200	6,000
合計	507,039	437	58,800	83,800	99,300	241,800

※端数処理のため、合計欄と内訳の合計は一致しません。

中分類ごとの管理に関する基本方針(主なもの)

本市は、8町村合併した市であり、文化センター、図書館、体育館等、重複する施設が多くあることから、今後、市の人口規模を踏まえて、必要となるサービスの質と量を考えて集約していきます。

また、観光施設等の産業系施設やデイサービス等の高齢福祉施設は、民間事業者での運営が可能ことから、それらの施設は、民間への譲渡を進めていこうと考えています。



主な施設類型の管理に関する基本方針の概要は以下のとおりです。

【集会施設】

公民館は、自治振興会の単位ごとに設置している市民活動の拠点施設であることから、継続的に維持・管理を行います。

【文化施設】

文化センターは、町村合併の経緯などもあり、複数の施設を有していますが、本市の人口規模を踏まえて集約します。

【図書館】

図書館は、行政センター内などに図書サービスコーナーを設置することなども含めて検討を行い、本市の人口規模を踏まえて集約します。

【スポーツ施設】

スポーツ施設は、市民がスポーツ活動を行うことができるように、人口規模を踏まえて適正な量を維持します。合併の経緯などから複数の施設を有する体育館やプールなどについては集約することを進めます。

【産業系施設】

産業系施設は、利用者数に比べてコストが高い施設が多く、また、本来民間でのサービス提供が可能であるものが多いことから、民間譲渡を基本的な考え方として整理し、総量縮減を図ります。

【幼保・こども園】

少子化の進行に応じてサービス供給量の見直しを行います。指定管理者制度の導入や民営化など、民間活力の活用などの方策も検討します。

【高齢・福祉施設】

高齢福祉施設については、民間事業者によるサービス提供が困難な部分を補完するかたちで、施設を保有します。また、維持していきべき機能は必要不可欠なものに精査します。

これからは、「あれも、これも」の発想から転換し、本当に必要なものを見極めながら、効率的に施設を利用できるように施設の複合化や統廃合など、再編を進めていくことが求められているんだね。

また、今まで以上に民間活力を活用して、住民サービスの向上や税収増、経費の節減に向けた取り組みをしなければいけないということだね。



公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な方針

人口減少や財政の縮小など、社会の動きが拡大から縮小に向かう中で、南砺市の身の丈にあった公共施設量へと見直しを進めていく必要性はご理解いただけたと思います。

見直しにより生まれる不要施設は単に取り壊すだけでなく、市の「未来」を創っていく貴重な資産として、積極的に利用の転換を図っていかうと考えています。

こうした未来志向の公共施設等のあり方を推進するため、公共施設等の管理に関する基本理念と基本方針を次のとおり定めて、確実に実行していくこととしています。



【基本理念】

『将来へ持続可能なまちづくりに向けて

「身の丈にあった」公共施設等保有量への転換を図ります』

【基本方針】

- ①新たな行政需要が生じた場合にあっては、既存施設の有効活用を図るものとし、原則として新規施設は建設しない。止むを得ず新設する場合は、同等の面積以上の施設を縮減する。
- ②既存施設の更新（建替え）に当たっては、行政サービスの必要水準（質）及び量に着目し、まずは、他の既存施設と併合した複合施設としての整備を検討する。なお、建替え後の面積は、建替え前の面積を上回らない。
- ③将来の人口推計及び財政シミュレーションから、持続可能な行政運営ができる規模まで公共施設保有総量で約50%、25万㎡を目標に縮減する。
- ④公共施設の縮減は、単に施設を廃止や取壊しするだけでなく、民間へ譲渡するなど、地域活性化に向けて可能な限り施設の有効活用に努める。
- ⑤公共施設マネジメントを一元管理する部署を設け、全庁的な観点から合理的な意思決定を行う。
- ⑥PPP(注1)/PFI(注2)等、民間活力を活かすことで、行政サービスの向上や税収増、経費の節減に向けた様々な取組みを続けるなど、地域経営を意識した施設運営を図る。
- ⑦本方針を基に、個別具体的な実施計画となる公共施設再編計画を策定する。なお、計画策定に当たっては、具体的検討を図る組織を必要に応じて設けるものとする。
- ⑧本計画の縮減目標面積等を下回る公共施設再編計画となる場合は、後世への負担を軽減するための維持管理経費等相当分を、基金として積み立てるものとする。

※注1：Public Private Partnership の略。公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、民間資本や民間のノウハウを利用し、効率化や公共サービスの向上を目指すもの

※注2：Public Finance Initiative の略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することで、効率化やサービス向上を図る公共事業の手法をいう

この後、公共施設再編計画策定作業を進めていきます。

この公共施設等総合管理計画を受けて、実施計画となる公共施設再編計画を策定します。市民アンケート調査の実施、施設の利用状況や維持管理経費、老朽度等をもとに、個別施設の再編の方向性を定めるものです。

* 公共施設等総合管理計画と公共施設再編計画は 100% 合致するものではありません。

* 素案が出来ましたら改めて住民説明会を開催します。

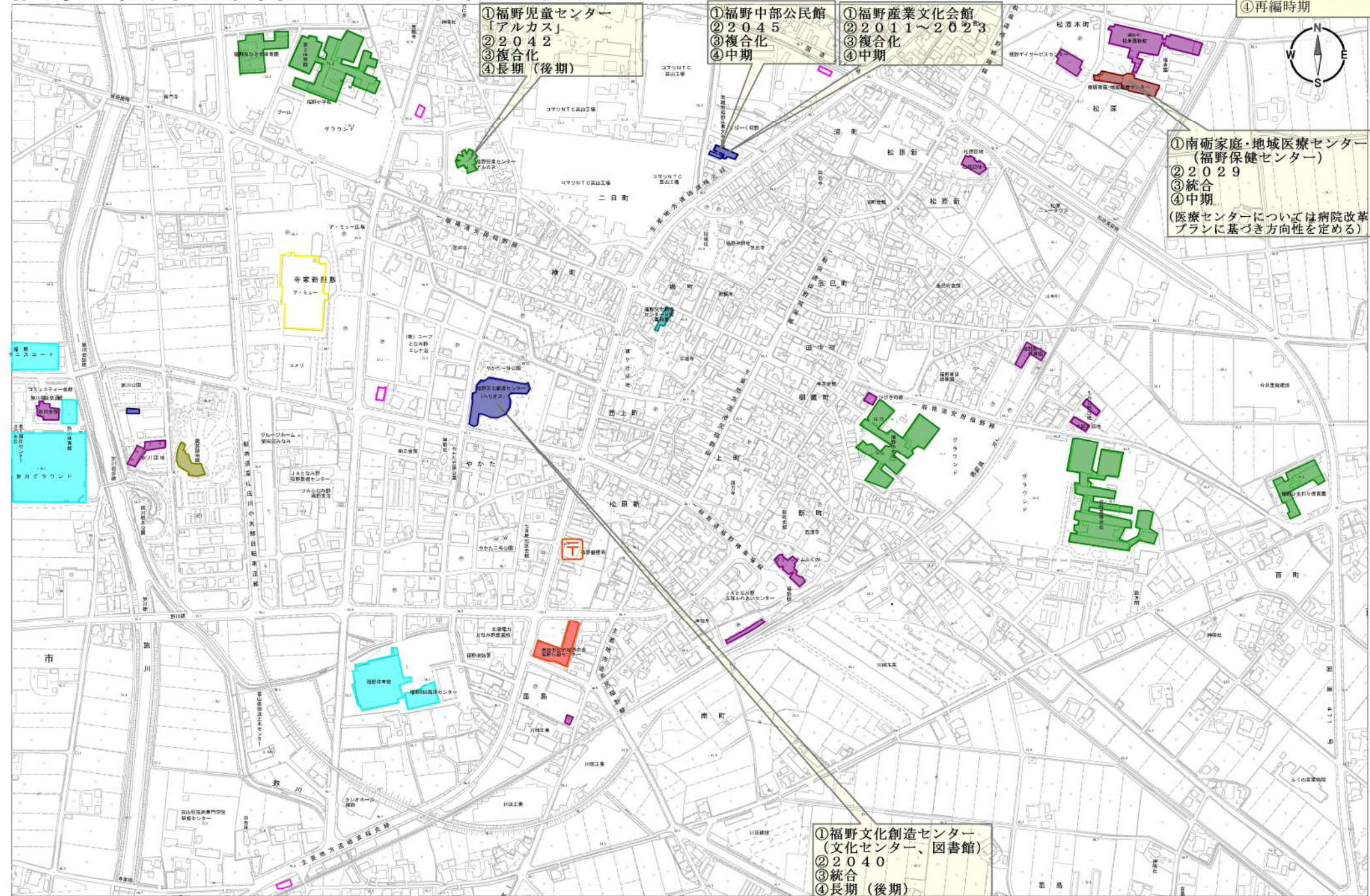


福野庁舎周辺市街地の公共施設の状況図

資料2

凡例

- ①施設名称
- ②耐用年数到来年度
- ③再編の方向性
- ④再編時期



福野地域 会議録

件名	福野地域提言実現検討組織 拠点づくりグループ 会議		
日時	令和元年 6 月 24 日（月）19 時～21 時	場 所	福野庁舎 2 階 201 会議室
出席者	拠点づくりグループ参加メンバー：6 名、地方創生推進課：2 名		
内容	・参加メンバーからの提供資料の説明 ・複合交流施設に必要な機能と具体的な取組について		
概要	◆古瀬さんから、提供資料（No.1）の説明 ①昨年、提言の検討の際に使用されたものである。 ②裏面には、福野地域の主な公共施設の利用状況と再編計画等の概要がまとめられている。 ③今後グループで検討を進める際にも、この資料を使用すれば分かりやすい。 ◆質疑応答 ●今回から新しく参加された方もおられるが、約 2 年前から庁舎統合の議論の中で議論をしてきた。福野庁舎が残るという前提で検討を進めてきたため、福野地域の優位性について初めに詳しく記載してある。 →今年度からの新たな検討組織では、何をやって利用率を高めるのか、そのためにどんなことをするのかという具体的な話を詰めていただきたい。誰が、そこで、何をやるのか。 ●一例として、高齢者の居場所づくりで言うならば、中部まちづくり協議会の中で運営してもらうのが良いだろう。中部在住に限らず、中部以外の方の参加があっても良いだろう。高齢者の居場所づくりが十分でない地区もあると思うので、そんな地区と連携して運営していくこともありうるだろう。 ●放課後児童の受け皿機能の面では、今後の児童数がどのように変化するのか、市の情報提供により、必要な面積等について検討していきたい。元気なお年寄り、特に教員 O B 等に無償ボランティアで子どもたちの宿題を見てもらう、というような体制を作ることが出来れば、児童らも喜んで交流施設へ来るはずだ。 →どうすればそういうことが実現出来るのか、ということはこのワーキンググループで話し合ってほしい。もう一つは、自主的に運営出来るアイデアをお持ちのメンバーもいらっしゃるの、そのアイデアとどのように絡めていくか。 ●行政で建物を建てて、地域で管理運営していくようなイメージを持っているが、指定管理者制度のように市から運営費をもらって管理していくものになるのではないかと考えている。維持管理費については、ハード面を考える上で欠かすことの出来ない課題である。福野地域は、公共施設再編計画に挙げられている施設の内、減らせるものがほとんど無いのに、「更に削減が足りない」と言っておられる。とすれば、再編計画以上に施設を減らさないといけないので、その部分もどうするのかを併せて考えてもらわないといけない。 →「どう維持していくべきか、本当に必要な機能は何か」をしっかりと考えていかなければならない。学校や公民館など最低限の公共施設だけでも、50%に近い数字になってしまう。 ●当然、50%削減に近づけることを念頭に置きながら検討していかなければならない。 →民間活力（民活）導入による民間施設であれば、当然、公共施設再編計画の対象にはならない。 ●南砺市での民活はどう考えても無理である。自分たちでは PPP も PFI も無理なのは当然だから、行政が一緒になって仕向けないといけないだろう。 →ファブリカ跡地は、市で一番良い立地と考えている。いろいろな方法を勉強しながら、民活の実現の可能性にも期待しながら、考えていきたいと思っている。 ●複合交流施設の建設は、福野も城端も提言しているが、その性格は全く違うものである。 →全市的な視点で見た時に、どの地域でも同じような施設が欲しい場合でも作ってはダメということはないと思っている。それによって、もしかしたら新たな連携が期待出来るかもしれない。		

- 新たな連携は無いだろう。なぜなら、町村合併がその例である。城端と福野では、地域性などが全然違う。
- 例えば、各地域づくり協議会の拠点が旧4町にあって、それらが連携し合うための機能も考えられるのではないか。そのほかに、市民の望んでいる何か一つのことなどに特化した機能も含んでもらえたら全市的な視点による取組みと成り得ると考えている。
- それは市が加えてくれれば良いのではないのか？
- 市が勝手に加えるのではなく、この地域だから出来ること、そして、そのためにはどんな機能が必要で、その機能は誰が実行するのか、という検討をしていただきたい。
- これまで、「全市的」を意識する必要はないと言われてきたのではなかったか？
- 是非、全市的という意識を今後の検討に加えて欲しい。

◆高橋さんから、提供資料（No.2）の説明

- ①P7以降について、メンタルヘルスコミュニティのコンセプトとしての、すべての人々を対象とした「癒し」「憩い」「営み」の3ゾーンについて提案
- ②「憩い」ゾーンでは、加えて南砺の食材を使用した、店内飲食可のおにぎり屋の開店を熱望。
- ③発達障害を診療する医師の誘致の意向

◆質疑応答（○…高橋さん発言）

- 医師の費用は市で見てもらうのか？
- それは分からない。その点を今考えているところで、株式会社がその医師を雇って給与を支払うとか。NPOやボランティアのような一般の一般市民の組織では、医師の派遣は無理である。
- 医師は、どこに派遣してもらうのかは既に決まっているのか？
- まだ決まっていない。当初は、わらび学園の東側のまだ開いている部分を想定し、個人医に開業してもらうつもりでいた。この件を、今検討している複合交流施設に入れてもらうことが出来ればなお良い。市が建てた施設の中に、診療所が開業すれば、他にはない素晴らしい複合交流施設となることは間違いない。みんなの集いの場となるこの施設に、発達障害の診療所が入るというのは、完全に特化したものであると言える。
- 発達障害の診療については、高岡や富山で、初診で3ヶ月待ちの状態である。仮に、ここに診療所があれば、南砺だけでなく、小矢部、砺波の子も受診に来る。ただ、この提案は、医師がいないと始まらない。
- 仮に、器があれば、そこに自力で営業されるということか？
- そうとも言えない。経営管理まで出来る人とは限らないし、また、看護師や医療事務も必要。そう考えると、月250万円以上の売上げがないと難しいと思われる。
- 全市的に役に立つ、明らかに他とは差別化された機能であり、これなら目玉になる。
- 市民と市が協力して建てた施設が、砺波や小矢部の人にも役に立つ。
- みんながほっと出来て、楽しい、そんな施設イメージを描いている。加えて、ここにおにぎり屋をやりたい。南砺の米と南砺の食材だけで作ったおにぎりに漬物、味噌汁のみのシンプルなメニューで、営業時間も11時から14時までくらいの短時間でいい。健常者も障害者も織り交ぜて働く。そこで働くことが「カッコいい！」と思われるようなものを作りたい。福祉作業所も大事だが、障害者だけで困ってしまうのではなく、人それぞれの特性を活かした工夫、合理的配慮に基づく働き方を進めたい。
- それをしていくときには、NPOか何か法人的組織による運営が必要になるのではないのか？
- どんなやり方になるのかは、今後の相談になってくる。
- 先に言われたメンタルヘルス的な機能をこの中に加えるのはどうか？これも全市的な取組みと言えるであろう。
- わらび学園がこの場所にあることは大きなポイント。ここは福祉型の施設なので医師がいない。わらび学園に医療を併設することも考えられるが、発達障害の子の診療を行いながら、様々な年代も受診出来るよう配慮することも必要。元々考えていたことだが、今回このような提言があったので、自分の思いも加えてほしいと思い、お話しした。
- 非常に良いアイデアだが、取組みについては市の支援がないと難しいのでは。

→近隣に、家庭・地域医療センターがある。市では、他にも市民病院、中央病院があるが、市に2つも病院は不要と言う声もある中で、市でこれ以上新たな場所に医療機関を持つことは不可能と考えられる。民間、またはその医師自身で開業いただく方向で検討いただきたい。

○市内には北陸病院もあるが、高齢者や精神障害者の対応で手一杯のため、発達障害まで対応し切れないという現状。市民病院も中央病院も同様に手が回らない。

○例えば、建物の一角を診療所とするならば、その部分のみを民間会社で運営する。その民間会社が、開業する医師を雇って給与を支払う、という方法が一番現実的ではないか。公ではなくても方法は考えられると思う。

→PPP や PFI というやり方もあるし、1つの建物を区分所有するやり方もある。様々なやり方があると思うが、診療所部分が市有でなければ問題は無いのではないかとと思われる。

●どの位の診療が見込めるものか見当がつかないが、その医師が食べていける程の収入は見込めるのか？

○発達障害を診るとなると、「待ち」が出る程の受診希望があると考えられる。診療費は診療報酬に基づくもの。収入に関しての心配は要らないと思う。

●わらび学園やマーシ園のあるこの場所に、診療所程度のもので良いのだろうか？もっともっと専門的な医療として必要なのではないか。

また、地域住民の拠り所となるようなことを提言で謳っているが、わらび学園利用者やその医師と地域住民とが交流出来るような場が、この施設の中にあれば良いのかなと思う。

●富山市長などは、しきりにコンパクトシティと言っている。自分たちも、コンパクトシティの考えで進めていけば、全市的な見方で取り組めるのではないか。現在の提言のままだと、産業文化会館や中部公民館の代替施設でしかない。そんな中途半端なものでいいのか。もっと大勢の住民にサービスを提供出来るような施設にしないといけないのではないか。将来の福野地域への人口流入も含めて「あったらいいな」と思える、また「借りたい」「行きたい」と思えるような施設。施設の趣旨が明確でないといけない。代替施設ではなく、「あったらいいな」と思える施設を市に建ててもらう。

●テナントも入れないと、維持管理出来ないだろう。

○洋服屋などと同様に、テナントとして診療所が入るような形にするのも一考であろう。

→逆に、例えば、民間で建ててもらえた場合、市民センター（行政センター）がテナントとして入り、市が賃料を支払う、という方法もある。

●市で建ててもらって、運営区分を変えて、そこに希望しているような機能がテナントとして入ってもらうというのが手取り早い。「収入を得る」観点をしっかり持って入ってもらわないといけない。

●産業文化会館の魅力は使用料の安さ。しかも、まち中にあるって利用しやすいこと。新しい施設は、貸室、テナント部分、更に利用者の要望を拾い出して組み込む。但し、それがごちゃ混ぜになって何の施設か分からないというのは避けたい。施設のコンセプトをしっかりと決めなければならない。

●テナントが空いたままになった場合の穴埋めについては誰が責任を取るのか、という話も明確に、しっかりと考えていかなければならない。やってくれる人がどんな設備が欲しいのかということも、また、どこまで市がやって、やってくれる人がどこからするのか、という区分けもはっきりしておく必要がある。

●市の建てた施設にテナントが入るという想像がつかないが、例はあるか。

→道の駅たいらの食堂や特産物販売店などがそれに当たる。

●使用料は市に入るとのことか？

→指定管理になっているので、指定管理者に賃料を支払っていて、それが指定管理料の一部となっている。

●井波のよいとこ井波も同様。

→よいとこ井波も、指定管理施設の中にテナントとして飲食店などが入って、その賃料が収入の一部となっている。

●いろいろと意見はあるが、今回のこの施設は、産業文化会館と中部まちづくり協議会の交流センターの代替施設という位置づけがメインになるのではないか。

- 専門家にも入ってもらって、進めた方が良い。そろそろ形にしていきたい。
 - 全市的な見方からすれば、メンタルヘルスコミュニティを目玉にして進めた方が良くと思う。そのための仕掛けは大変かもしれないが、大事なことであり、インパクトもある。
- 南砺市内で人の取り合いをせずに、市外から人を呼び込めるように。また、提言にもあるが「南砺市の防波堤」となれるように、広い視点で構えるべきではないか。
- その点では、この会議とは別の福野まちづくり協議会で、市内の大手企業の市外からの通勤者をターゲットに付加価値を付けた住宅開発について検討してきた。開発は民間だが、市の助成制度の拡充による支援を加えて、更に民間のまちづくり団体がボランティアで購入者を呼び込む仕掛け。今回のファブリカ跡地の残りの土地や庁舎跡地の検討に是非生かしていきたい。

◆次回会議

7／8（月）午後7時から、福野庁舎2階 講堂

福野地域提言実現検討会議 グループ 1 【新しい核となる拠点づくり】検討資料

1 公共施設再編計画の視点からの試算

(1) 福野地域内でのスクラップ & ビルド で 50%削減目標

新しい核となる拠点施設						廃止する施設	
施設名	行政施策との関連	区 分	施設内容/規模のイメージ		延床面積(m ²)	施設名	延床面積(m ²)
複合交流施設	小規模多機能自治の推進	中部まちづくり協議会	事務室		20	福野産業文化会館	1,062
			大会議室	100名規模(100畳)	160	福野中部公民館	87
			会議室 2	45m ² ×2	90	ひびきの家	194
			物置等		10	旅川福祉交流館	1,269
	高齢者の地域で支え合う体制づくり	高齢者の居場所	高齢者交流スペース	40名規模(40畳)	60	現行政センター	285
	子育て支援	放課後児童の居場所 幼児子育て空間	児童学習スペース	40名規模(40畳)	60		
			子育て交流スペース				
	行政改革	行政センター	行政サービス窓口		100		
	生涯学習	一般サークル活動等	会議室 2	45m ² ×2	90		
	持続可能な運営	テント空間	一般テント	30m ² ×2	60		
			物販テント	30m ² ×1	30		
			マルチホール(仮称)テント				
		その他空間 (屋外空間)	玄関/廊下/トイレ/エントランス空間等(延床面積×0.3) (芝生広場)		200 (1,000)		
合 計					880		
目標値					1,450	合 計	2,897
(旅川福祉交流館除く目標値)					(820)		(1,628)

2 持続可能な運営方法の検討(案)

- (1) 施設整備の観点 ① 太陽光パネル設置による電気料の節減
 (2) 運営上の観点 ① テントによる収入 ② 地域での物品販売 ③

3 運営主体の検討(案)

- (1) 指定管理制度 ① 中部まちづくり協議会が中心となった運営 ② 指定管理者
 (2) 民間 ① リバース・スクールをベースにした民間組織